

森林やまがた

No.205

2023. 4



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

令和5年度山形県森林・林業・木材産業施策の展開方向.....	2~3
スマート林業の実践に向けて(その2).....	4
令和4年度山形県再造林加速化対策研修会.....	5
令和4年度林業事業体経営体質強化研修会を開催.....	5
伐採及び伐採後の造林の届出制度の一部改正について.....	6
大切な森林を守るための山火事防止 ～火の確認 山を愛する あなたのマナー～.....	6
「やまがた絆の森」協定を新たに締結&延長しました... みどりのページ	7
「緑のふるさとづくりセミナー」を開催.....	8
山形県源流の森と鶴岡市立加茂水族館が連携協定締結.....	8
山形県緑の少年団活動審査会で 鶴岡緑の少年団が最優秀賞！.....	9
森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 活動報告会.....	9
山形県森林経営管理実行サポート事業について.....	10
国有林から 施業案に見る明治期の山形の国有林.....	11
普及情報 森林研究研修センター令和5年度の研修計画.....	12

フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から 卒業論文への取り組みについて.....	13
令和4年度むらやま森林ノミクスセミナー.....	14
村山地域の森林・林業の情報発信 「村森(むらしん)チャンネル」を開設.....	14
むらやま木育普及促進の取り組みについて.....	15
「最上地域森林・林業・木材産業推進セミナー」開催.....	16
「置賜森林(モリ)ノミクス推進フォーラム2023」の開催.....	17
置賜産広葉樹材の有効活用に向けて ～新潟県「スノービーチ・プロジェクト」調査報告～.....	17
木炭展示会・講演会の開催.....	18
置賜「地材地住」ネットワークの木工教室について.....	18
ツリーイングを駆使した特殊伐採 ～人家の裏など重機が入れない場所での伐採技術～.....	19
林業の道具 in 山大 林業体験研修が開催されました.....	20
令和5年県民の森・眺海の森・源流の森・遊学の森 イベント案内.....	21
人事異動.....	22

業・木材産業施策の展開方向

(2) 主伐・再造林推進プロジェクト

- ・再造林経費への支援や森林所有者が自ら行う小規模再造林への支援 **一部新規** 【一部、やまがた緑環境税】
- ・主伐・再造林加速化対策会議の開催、事業者間連携のための研修会の開催 【森林環境譲与税】
- ・県内由来の耐雪性を有する特定母樹の選抜育成、ミニチュア採種園造成による特定母樹等の種子増産、特定母樹等の育苗技術の検討
- ・病虫害抵抗性品種の開発、無花粉スギ品種の育成
- ・一貫作業システムによる低密度植栽を実施する森林組合、林業事業者及び森林所有者等への支援
- ・コンテナ苗生産基盤施設等の整備への支援

(3) 多面的機能の高い森林管理・保全プロジェクト

- ・森林経営管理制度の円滑な運用に向けた山形県森林管理推進協議会の開催、市町村・林業関係団体等との情報共有、林業経営者の体制強化や森林所有者等への普及啓発【森林環境譲与税】
- ・「やまがた森林と緑の推進機構」による市町村の森林経営管理制度実行体制の技術的サポート【森林環境譲与税】
- ・森林の保全管理に向けた保安林の指定や林地開発許可制度の適正運用
- ・森林病虫害防除のための特別伐倒駆除、薬剤散布、樹幹注入等の実施、支援
- ・管理放棄され荒廃のおそれのある人工林や里山林の整備【やまがた緑環境税】

(4) 災害等に強い治山対策推進プロジェクト

- ・山地災害を復旧または予防する治山施設の整備、地すべり防止施設の整備、保安林の多様な機能の向上を図る森林整備等の実施（山地治山総合対策8箇所、水源地域等保安林整備3箇所、農山漁村地域整備交付金13箇所）
- ・県単独事業による補助事業対象外の治山施設の復旧や災害発生時の緊急調査等の実施
- ・荒廃現況等の事前調査や災害関連緊急事業採択のための調査の実施

3 「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」

(1) 県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上プロジェクト

- ・木材の加工流通施設整備への支援
- ・広葉樹ストックヤード整備や首都圏での商談会展経費への支援【森林環境譲与税】

4 「県産木材の利用促進・特産林産の振興」

(1) 県産木材利用促進プロジェクト

- ・「山形県林業まつり」での県産木材をテーマとした展示や児童木工コンクールの開催経費への支援
- ・大型商業施設での県産木製日用品展示会の開催 **新規** 【森林環境譲与税】
- ・県産木材を活用した新築住宅及び民間施設への支援【一部、森林環境譲与税】
- ・民間施設や中・大規模木造建築物の木造化に取り組む建築士の養成 **拡充** 【森林環境譲与税】
- ・「山形県林工連携コンソーシアム」の運営と成果事例の情報共有【森林環境譲与税】
- ・間伐等により生じる低質材をラミナ用材やバイオマス燃料として利用するための搬出経費支援
- ・ナラ林健全化のための被害木のチップ等活用への支援【やまがた緑環境税】

(2) 特産林産物振興プロジェクト

- ・山菜・きのこ等の特産林産物の振興に向けた栽培技術向上や生産基盤整備による生産拡大、販売支援等に対する総合的な支援の実施

5 「その他」

- ・森林環境の維持・管理技術の確立や、きのこ・山菜等の優良品種開発、森林病虫害の防除技術開発等の試験研究を実施 **一部新規**
- ・森林の保続培養及び生産力の増進を図るとともに森林組合等の健全な育成発展に資することを目的とした事業資金の貸付（森林組合振興総合資金）
- ・木材生産の合理化の促進並びに林業経営の安定化を図ることを目的に、造林・育林、素材生産、製材、木材卸売等の事業を行う事業者等への融資（木材産業等高度化推進対策事業資金）
- ・林業者及び木材産業事業者が先進的な取り組みを行うために必要とする事業資金の無利子貸付（林業改善資金）

《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林ノミクス推進条例）に即し、第4次農林水産業元気創造戦略（R3～R6）の目標達成を目指して、「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン～第3次山形県森林整備長期計画～」(R3.3策定)に沿って、各施策を着実に実施する。

《施策の展開方向と重点的な取組み》

やまがた森林ノミクスを加速化させるため、

- 1 「人材育成・地域づくり」、 2 「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」、
- 3 「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」、 4 「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

の4つを柱として、各種施策を体系的に展開していく。

1 「人材育成・地域づくり」

(1) 林業を支える人材育成と事業体強化プロジェクト

- ・「林業労働力の確保の促進に関する法律」による改善計画の実行支援と事業合理化の推進、労働災害防止対策
- ・林業現場の労働環境改善等に対するオーダーメイド型支援 **新規**【森林環境譲与税】
- ・林業就業に向けて研修を受講する者に対する「緑の青年就業準備給付金」の給付
- ・山形県指導・青年林業士の養成研修、意欲的林業グループ等の活動支援【森林環境譲与税】
- ・森林所有者や林業を行うもの等に対する技術・知識の普及・指導

(2) 魅力ある地域づくり促進と参加意識醸成プロジェクト

- ・やまがた森林ノミクス県民会議の開催、情報発信・普及啓発、林業遺産認定に向けた調査の支援【一部、やまがた緑環境税】
- ・森林サービス産業検討会の開催、森林空間を活用したモデルツアー等への助成 **拡充**【森林環境譲与税】
- ・やまがた森林ノミクス宣言10周年記念イベントの開催 **新規**【森林環境譲与税】
- ・県内4つの県民の森(県民の森・眺海の森・源流の森・遊学の森)の管理運営〔各総合支庁〕
- ・市町村や地域住民、NPO等が独自性と創意工夫を凝らして取り組む森づくり活動等への支援〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】
- ・「やまがた森の感謝祭」や、森を守り、育て、暮らしに活かす緑の循環システムを体験するイベントの開催〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】

2 「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」

(1) 県産木材の安定供給推進プロジェクト

- ・森林を集約化し計画的に搬出間伐などの森林施業を実施する森林組合や林業事業者等への支援
- ・効率的な施業が可能な区域における搬出間伐や路網整備への支援
- ・事業者に対する高性能林業機械の導入支援
- ・低コスト作業システムの確立等に取り組む事業者に対する高性能林業機械のトライアル(レンタル経費)支援【森林環境譲与税】
- ・森林クラウドシステムの運用及び情報更新【森林環境譲与税】
- ・航空レーザ測量の実施により森林資源のデジタル管理を行う市町村の支援
- ・スマート林業の実践に必要な機器導入と国研究機関への職員派遣 **新規**【森林環境譲与税】
- ・県営林の経営・維持管理、SGEC森林管理認証に基づく森林モニタリング調査の実施
- ・生産性向上計画に基づく搬出間伐への支援、高性能林業機械のヘッド更新に対する支援
- ・高精度な森林情報取得のための県・国・市町村による航空レーザ測量の共同実施
- ・スマート林業推進協議会や最上地域に設定したモデル団地における現地検討会の開催
- ・民有林林道の整備(木材生産基盤となる林道開設9路線、林道改良1路線、点検診断等)
- ・森林施業の集約化に向けた森林経営計画の作成や森林境界の確認等への支援

スマート林業の実践に向けて(その2)

【はじめに】

前号のスマート林業の実践に向けて(その1)では、スマート林業推進の背景と現状や、森林情報の活用として、令和4年度から県と東北森林管理局、市町村が連携して実施している航空レーザ測量、山形県森林クラウドシステムについて、県内の取組を報告しました。

今回は、林業作業現場でのスマート林業の実践に向けた取組みについて報告します。

【高性能林業機械等の活用】

県では、令和4年度からの4カ年計画で、スマート林業実践化モデル事業を実施しています。最上地域スマート林業協議会を組織し、真室川町内に設定したモデル団地において、ICT等の森林情報の活用や高性能林業機械等による軽労化・省力化した林業の実践を行っています。

昨年8月に開催した協議会では、年々下刈り面積が加速的に増えていることに伴い、労務の確保が大きな問題となっており、ここを改善することが当面の大きな課題とされました。そのため、これまで刈払い機

で行われてきた下刈り作業の機械化

(将来的には自動化)について、重点的に検討を行うこととしました。

モデル団地内で10月28日に行った現地検討会では、乗用型、バックホウアタッチメント型、無線式の3タイプの機械で検討を行いました。機械を使った草刈りは可能でしたが、効率的な作業のための植栽間隔、作業道の配置等解決すべき課題が多く、機械を前提とした植栽の方法等について実践と検討を行うことが必要であることが分かりました。

また、ドローン等による測量やア



無線式刈払い機



ロングリーチ重機



ドローンによる測量

ームが延び縮みするロングリーチの重機による伐採作業、スマートフォンのアプリによる丸太の検収について検討を行いました。こちらについても導入に向けた課題がありました。

【スマート林業の実践に向けて】

令和5年度以降は、これまで判明した課題の解決に向けた現地での調査や検討を進めていくとともに、次のような最新技術の実践に取り組んでいきます。

①航空レーザ測量等活用した森林のゾーニング、②ドローンや地上レーザ測量などによる詳細な森林情報の取得、③最新の機械による作業の自動化や軽労化・省力化、④川上から川下までのサプライチェーンマネージメントにおけるICT等。

【終わりに】

最新の技術を導入することは、予想のできない事態の発生や、効果が十分に理解できない状態での高価な機器の導入コストなど大きなリスクがあります。しかし、利用期を迎える人工林の循環利用に向けた適正な施策の増加や、今後ますます進む人口減少等に対応するためには、こうした技術を活用していくことが必須となっています。

県では、スマート技術の情報を収集・発信するとともに、効率的な活用に向け、調査研究や積極的に取り組む事業者への支援を行ってまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和4年度山形県再造林加速化対策研修会

◆はじめに

本県林業の喫緊課題である皆伐後の再造林に従事する事業者等に広く情報を提供し、共通認識下一体となつて山形県の再造林を推進することを目的に、山形県再造林推進機構主催の研修会が開催されました。

◆研修講義内容

1 全国の再造林事例紹介

FOREST MEDIA WORKS(株)

代表取締役 榎崎 達也 氏
皆伐再造林に関する全国的な課題として、伐採業者と造林業者の連携が薄く、年々増加する下刈り面積にどう対応するのか等の事例が紹介されました。また、それらの課題への解決策として、協議会形式は止め、業者間でお互いにメリットがある業務提携等を結ぶ、新しい技術をきちんと効果が出るような使い方で検討・コスト検証を行う等が提示されました。

2 再造林施策に係る実践紹介

① 山形地方森林組合

業務課長 半田 泉 氏

山形地方森林組合では、再造林については同意を頂いているものの、

植栽後の保育が懸念材料となっている状況であり、植栽後の保育費用として5年程度の保育費をお預かりし、自立できる森林と判断できれば所有者にお返しすることとした。

② 金山町森林組合

技術員 高倉 智 氏

金山町森林組合では、所有者の家族内で山に関心を持ってもらうことや、森林組合を身近に感じてもらう、気軽に相談してもらいやすい関係性を構築することを大切に行っていることとした。スギの町金山として、皆伐したら再造林という考えを持つ所有者が多く、再造林を進めやすい地域性がある点も助かっていることとした。

◆おわりに

再造林やその後の保育に関わる課題として、いずれの講師も人手不足に言及していました。県では、いかに造林技術者を確保していくかという面と、機械化による軽労化や大苗の使用等による下刈り回数削減等といった造林技術の両面から、課題解決に向けて取り組んでいきます。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和4年度林業事業体経営体質強化研修会を開催

◆はじめに

令和4年度林業事業体経営体質強化研修会が、令和5年3月7日に開催されました。研修会には、林業事業体から40名、県・市町村・関係団体から19名の参加があり、『林業事業体の「組織経営」を考える〜人が集まる、選ばれる組織になるために〜』と題して、事業体の経営改善支援や、人材育成カリキュラムの作成及び運営を手がけてきた、フォレストメディアアワークス株式会社の榎崎達也氏から、講演をいただきました。

◆目的

森林経営管理法に基づく「意欲と能力のある林業経営者」には、市町村からの再委託や、森林所有者からの受委託などにより、森林を預かり、責任を持って適切に経営・管理していくことが求められています。一方で、林業事業体における労働力不足、特に若手職員の退職等を含めた人材不足は、喫緊の課題となっています。このことから、林業事業体の経営力の強化を図ることが大切です。

◆内容

講師の榎崎氏からは、事前に行つたアンケート結果や、東海地方、関西地方における事例に基づき、林業事業体の抱える問題の解決には、「組織経営」を学ぶことが重要であるというお話をいただきました。土台となる組織が安定しなければ、その上に成り立つ、各施策やスマート林業等の新しい取組みはうまく機能せず、林業で働く人が、少しでも幸せになるための各組織の取組みが積みあがることで、国・県の森林・林業の発展や数値目標の達成に結び付く、というポイントを強調されました。

◆おわりに

参加者からのアンケートでは、今後の業務に大いに役立つ内容であった、という回答が多く寄せられ、有意義な研修会となりました。また、より多くの方に研修会の内容を学んでいただくため、令和5年4月28日までユーチューブにてオンライン配信されます。ぜひご覧ください。

〔県森林ノミクス推進課〕

伐採及び伐採後の造林の届出制度の一部改正について

◆はじめに

地域森林計画の対象である民有林において、森林を伐採するときは、森林法に基づく手続きが義務付けられています。このたび、伐採及び伐採後の造林の届出制度に関する法律の一部改正がありましたのでお知らせします。

◆普通林（保安林以外）の伐採

森林所有者など伐採の権原を有する者が伐採を行う場合は、伐採する場所や伐採方法、伐採後の造林の方法などについて「伐採及び伐採後の造林の届出書」（以下、届出書）に記載し、伐採開始日の90日前から30日前までに、伐採等を行う森林のある市町村に届出する必要があります。なお、届出内容が市町村森林整備計画に適合しない場合や、計画と異なる伐採等を行っている場合には、市町村長は届出者に対して、計画の変更や遵守を命じる場合があります。

◆添付書類の統一的な運用

伐届に添付する書類は、これまで法令上の規定はなく、行政指導と

して運用されてきましたが、一昨年

熱海市で発生した土石流災害を契機として、伐採を含む土地の形質変更に対しては、隙間のない規制が求められることとなり、令和5年4月1日から、伐届には次の書類添付が義務化されました。①森林の位置図及び区域図、②届出者の確認書類、③他法令の許認可関係書類（該当する場合）、④土地の登記事項証明書等、⑤伐採の権原関係書類（届出者が土地所有者でない場合）、⑥隣接森林との境界関係書類、⑦市町村長が必要と認める書類。

◆届出や命令の遵守

無届伐採、遵守命令に従わない、必要な添付書類に不備がある、届出が虚偽である等の場合には、罰則が適用される可能性があります。

◆おわりに

森林の各種手続きに関する詳細については、市町村の林務担当課や県の総合支庁森林整備課までお問い合わせください。

〔県森林ノミクス推進課〕

大切な森林を守るための山火事防止

火の確認 山を愛する あなたのマナー

◆山火事の発生時期

山火事の発生は、雪解けが始まる4月から5月上旬の雨が少なく、空気が乾燥し、季節風が強い冬から春先に集中します。また、農作業を始める時期とも重なり、例年、田畑や自宅周辺での火の使用が原因の山火事が多発しています。さらに、炎が燃え広がりやすい時期であるため、初期対応が遅れると大規模な山火事に発展するおそれがあります。

◆山火事防止運動について

県では、「火の確認 山を愛する

あなたのマナー」を統一標語に、令和5年4月3日～5月31日までを山火事防止運動の実施期間とし、県内各地区で関係機関が連携し、森林巡視や広報宣伝活動などを行います。

◆山火事を発生させないために

森林やその周辺では、次のことに注意して、山火事防止に取り組みましょう。

- ① 枯れ草などがある場所で、たき火をしないこと。
- ② 強風時及び乾燥時には、たき火や火入れをしないこと。
- ③ やむを得ずたき火等の火を使用

する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。

- ④ 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。
 - ⑤ タバコは指定された場所で喫煙し、吸い殻は確実に消すとともに、投げ捨てをしないこと。
 - ⑥ 火遊びはしないこと。
- 山火事を発生させないよう私たち一人ひとりが火の取扱いに注意することを心掛けましょう。

◆おわりに

森林は水源のかん養や災害の防備機能、生活環境の保全・形成等の公益的な機能を持っています。また、地球温暖化防止のための二酸化炭素の吸収源として期待されています。ところが、山火事が一度起こると、森林の持つこれらの重要な役割が一瞬で失われることとなります。燃えて無くなってしまう森林が元の姿に回復するまでには、長い年月と莫大な費用を要します。かけがえのない、大切な森林を守るため、山火事防止に御協力をお願いします。

〔県森林ノミクス推進課〕

「やまがた絆の森」協定を新たに締結＆延長しました

◆「やまがた絆の森づくり」とは
森林を通して、地域や環境のために貢献したいという企業や団体が、森林の所有者の方と協定を結んで、森づくり活動を行う取組みです。

趣旨に賛同いただいた2企業から、新たに森づくり活動を始めていただくことになりました。また、令和4年度で協定満了を迎えた5企業等から、協定を延長し、令和5年度以降も活動を続けていただくこととなりましたので紹介します。

◆リコージャパンなないろの森

門伝生産森林組合・山形県・リコージャパン株式会社
「やまがた絆の森」協定締結式
～リコージャパンなないろの森～

企業：リコージャパン株式会社山形支社
森林所有者：門伝生産森林組合
協定年月日：令和4年8月1日

企業 活動地 協定期間
リコージャパン(株)山形支社
山形市大字門伝
令和9年3月31日まで

県民の森の中に位置する森林で下刈りや歩道整備などの手入れを社員、地域と協働で行い、SDGsの7つのゴール(7・8・11・13・14・15・17)の達成を目指します。

地縁団体梓山区会・山形県・株式会社SUMCO
「やまがた絆の森」協定締結式
梓山ほんわかのもり

企業：株式会社SUMCO米沢工場
森林所有者：地縁団体梓山区会
協定年月日：令和5年2月7日

◆梓山ほんわかのもり

企業 活動地 協定期間
(株)SUMCO米沢工場
米沢市万世町梓山
令和10年3月31日まで

梓山地域の憩いの森での下刈りや間伐、施肥などの森林整備活動を通じて地域との絆を結び、地域の環境保全や活性化に貢献します。

企業 活動地 協定期間
(株)荘銀かねやま絆の森
(株)荘内銀行
金山町大字金山
令和8年3月31日まで



育林活動に加え、持続可能な地域環境づくりに関するセミナーやワークショップなども実施。森づくり活動を通して学びや気付きを得、視野を広げていくことを目指します。

◆かねやま絆の森

企業 活動地 協定期間
富士フィルムBI山形(株)
金山町大字朴山
令和8年3月31日まで

地域と企業が協働でCO₂森林吸収量の確保に取り組みモデルとしてこの活動を位置付け、森林体験を通して企業と地域が描く「次世代の森づくり」の可能性にチャレンジします。

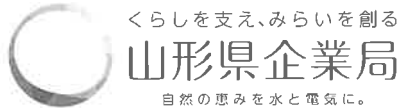
◆企業局絆の森 月山仁田山

参画企業 活動地 協定期間
山形県企業局
西川町大字月岡
令和8年3月31日まで

森づくり活動により森林の公益的機能の維持・向上に貢献し、職員自らが環境保全に取組むことで地域との絆を深め、水環境保全活動の重要性について普及啓発を図ります。

◆ステージアンサンブル東北

「まほろばの里 絆の森」
参画企業 (株)ステージアンサンブル東北



富士フィルムBI山形

活動地 高島町大字安久津
協定期間 令和8年3月31日まで
数多くの名所遺跡が存在する高島町の豊かな森林で、遊歩道整備や植樹活動等を通じ、地域とともに町の環境保全と地域活性化に貢献します。

◆モンテディオ山形 未来の森

参画企業 活動地 協定期間
(株)モンテディオ山形
天童市大字田麦野
令和8年3月31日まで

サポーター、地域住民及びパートナー企業と共に森づくりを行い、チームを身近に感じてもらおうとともに、参加者相互の交流を創出し、地域の素晴らしい自然を遺していきます。



©MONTEDIO YAMAGATA



株式会社 ステージアンサンブル東北

◆おわりに
令和5年度からは、県内38企業等が36地区で森づくり活動を進めます。近年、カーボンニュートラルやSDGsの目標達成に向けた活動に興味を持つ企業が増え、森づくり活動への注目度が高まっております。今後やまがた絆の森の普及を図り、森づくりの輪がより一層広がるよう、取組みを進めてまいります。

〔県みどり自然課〕



みどりのページ

「緑のふるさと びくりセミナー」 を開催

2月24日（金）、山形ビッグウイングにおいて、緑と森づくり支援事業研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。市民活動による緑化の推進や森林環境の保全について広く普及啓発するとともに、関連する助成事業について周知を図るため毎年開催しているもので、3年ぶりに会場での開催となり、約90名の参加者が集まりました。

第1部では、東北芸術工科大学芸術学部の田口洋美教授をお招きし、「求められる野生動物との関係性」と題してご講演いただきました。先生は、新潟県岩船郡朝日村（現村上市）三面集落の記録映画製作への参加をきっかけに狩猟文化研究者となり、東日本を中心にフィールドワークを続けてこられました。狩猟採集民研究を基礎とした野生動物保護管理にも携わり、県の特定鳥獣保護管理検討会の委員なども務めていらっ

しゃいます。講演では、近年なぜ野生動物たちが人間の生活エリアに出没して問題となっているのか、三面集落での研

究成果や歴史的な背景も踏まえてお話いただきました。野生動物による人的被害も発生しており、人間の生命を守ることも大切だという先生のメッセージは、多くの参加者に響いていたようでした。今回の講演の模様は、先生のご厚意により、YouTubeでの動画配信も行っています。やまがた森林と緑の推進機構ホームページからリンクしていただけますので、当日参加できなかった方もぜひご覧ください。



田口教授の講演

第2部では、助成事業を活用した2つの取組みについて紹介しました。
① 緑の環境づくり推進事業
発表者 美しい山形・最上川フォーラム（山形市）事務局 安部明子氏

内容 桜を維持管理するための桜守養成講座の開催、SNSでの桜情報の発信などについて

② 郷土の名木・古木等保全事業
発表者 樹木医 梅津勘一氏
内容 鶴岡市指定天然記念物「乳銀杏」の診断・保全処置（イチヨウに着生したケヤキの除去など）について

第3部では、助成事業ガイドランスとして、令和5年度事業の募集概要について担当者が説明しました。

当機構では、今後も緑豊かなふるさとづくりを推進していくため、様々な支援や普及啓発に取組んでいきます。

山形県源流の森と鶴岡市立加茂水族館が連携協定締結

12月6日（火）、鶴岡市役所において、山形県源流の森と鶴岡市立加茂水族館が、連携に関する協定を締結しました。源流の森指定管理者である当機構今井理事長と源流の森安達館長、加茂水族館指定管理者である鶴岡市開発公社阿部理事長と加茂水族館奥泉館長が出席し、協定書に署名しました。この協定により両施設の交流を図るとともに、森と海のつながりを県民に広く知ってもらうことを目指しています。

協定書の内容として、両施設の相互交流及び情報交換、両施設における利用者の増大、「森と海」のつながりを学ぶプログラムの実施、森と海に係る環境学習の推進、源流の森インタープリターと加茂水族館クラゲマイスターとの相互交流などを挙げられています。



連携に関する協定式

令和5年度は、源流の森でのクラゲの水槽展示やワークショップ、加茂水族館でのクラフト教室、陶芸教室の開催を予定しています。

山形県緑の少年団活動審査会で 鶴岡緑の少年団が最優秀賞!

山形県緑の少年団連盟が主催する令和4年度山形県緑の少年団活動審査会で、庄内ブロック代表の鶴岡緑の少年団（鶴岡市）が最優秀賞を受賞しました。

鶴岡緑の少年団は、鶴岡市内の4〜6年生が所属する地域単位団です。学習活動として、サマーキャンプや庄内地区交流研修会に参加しました。やまがた森の感謝祭の参加、油戸「魚の森」・J.Tの森での森づくり活動、つるおか大産業まつりでの緑の募金の呼びかけ活動、どんぐりの森救出大作戦の参加などの奉仕活動にも積極的に取り組んでいます。鶴岡緑の少年団が特に力を入れた



油戸「魚の森」での補植

活動は森づくり活動です。油戸「魚の森」での活動では、下刈り作業やアキグミ、ネムノキ、カシワの補植に取り組みました。J.Tの森では、県道余目加茂線沿線の市有林の除伐や枝拾い作業、防風柵の作成と設置を行いました。また、どんぐりの森では、どんぐりを拾い竹ポットに植付けた後、昨年度までに植付けた成長したどんぐりの苗を移植する活動を行いました。

なお、優秀賞は、二井宿みどりの少年団（高島町）、真室川小学校みどりの少年団（真室川町）、津山小学校みどりの少年団（天童市）が受賞しました。

最優秀賞を受賞した鶴岡緑の少年団は、11月に茨城県で開催される全国緑の少年団活動発表大会（全国育樹祭併催行事）に推薦される予定です。

森林・山村多面的機能発揮 対策交付金事業 活動報告会

3月9日（木）、パレスグランデールにおいて、標記事業の活動報告会を開催しました。本交付金は、地域住民らが行う里山林の保全管理等を支援する林野庁の補助事業で、やまがた森林と緑の推進機構が山形県

における地域協議会を担っています。当日は、地域協議会委員、アドバイザーをはじめ、各活動組織、今後活動に取組みたい団体、県、市町村などから、約80名の参加者が集まりました。

はじめに、山形大学地域教育学部の村松真准教授から、「里山の活用と交流」と題して、関係人口創出の観点からご講演いただきました。先生は金山町のご出身で、町職員時代から森林・林業と関わりながら地域づくりに携わってこられました。農山村地域で集落消滅の恐れが今後益々高まっていく中、それを避けるには何にどうやって取り組んでいくべきか、多くのヒントを与えていただきました。先生の熱意のこもったお話に、参加者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。



村松真准教授の講演

「緑の募金」にご協力いただいた 企業・団体のみなさま

(R5. 2. 1~R5. 3. 31)

〔やまがた森林と緑の推進機構取扱い分〕

青山建設グループ緑の募金の輪を広げる会、M木工、大金電子工業(株)、小国町森林組合、北庄内森林組合、(株)スペーツパーツ山形、西村山地方森林組合、山形県森林研究研修センター、米沢地方森林組合（敬称略、五十音順）

ご協力ありがとうございました

活動報告は、令和4年度をもって3ヶ年の活動計画が一区切りとなる5団体に発表していただきました。

① 東法田元気な村づくり協議会（最上町）

② 玉庭地区交流センター四方山館（川西町）

③ 西根森づくりの会（長井市）

④ 畔藤森づくりの会（白鷹町）

⑤ 山口里山を楽しむ会（白鷹町）

また、報告内容について、村松准教授、地域協議会委員の鈴木良幸氏、黒田三佳氏、大泉みどり氏、アドバイザーの大隅尚行氏からご講評もいただきました。

取組みについてのご相談は随時受付けていますので、お気軽にお問合わせください。

（公財）やまがた森林と緑の推進機構

山形県森林経営管理実行サポート事業について

◆はじめに

森林経営管理制度の運用が始まり、今年度で5年目となり、来年度からは森林環境税の課税が開始されます。

やまがた森林と緑の推進機構では、今年度も県からの委託を受け、市町村の進捗状況に合わせてサポートを行ってまいります。今回は昨年度までの実施状況を踏まえ、課題と対応などについてご紹介します。

◆市町村の取組み状況

意向調査は、これまでに26市町村と約8割で実施されており、これからの市町村では、森林資源解析や境界明確化などを行った後に実施の予定となっています。

集積計画は、おおむね意向調査実施の翌年度に作成され（10市町村）、配分計画についてもおおむね集積計画作成の翌年度に作成されている状況となっています（4市町村）。また、森林整備については、3市町で実施されています。

◆実施方針の課題と対応

市町村の実施方針は本制度を効率的に進めるための指針で、現在12市

町村で策定されています。取組みの優先順位を決定するゾーニングを行うため、路網の整備状況や斜面傾斜、境界情報の有無等を委託により調査し、その結果により優先順位や年度別の計画を作成しているものです。

作成のポイントとして、次のような内容が上げられます。

① 「林業経営に適した森林」と「林業経営に適さない森林」について、どちらを先に進めるのかを決めること。両方を同時に進めようとする、市町村内を一巡する期間は短くなりますが、事務・事業量は膨大となります。

② 「林業経営に適した森林」を優先する場合は、経営管理実施権者がどの程度の面積規模であれば企画提案がしやすいかを検討すること。

③ 「林業経営に適さない森林」を優先する場合は、災害危険区域の森林など対象を明らかにすることなどが考えられます。

これまで県内では、「林業経営に適した森林」を優先して進めていく市町村がほとんどとなっています。



現地での検討状況

実施方針を定めるに当たって協議

会及びその下部組織の検討部会に諮って決定している市町村が多くありますが、この組織で現地での検討を行ってから実施区域や年間の面積規模を決定することにより、的確で効率的な計画になると考えられます。

また、実施方針は本制度を進めていく中で必要に応じて修正を加えていくことで、適切な森林の経営管理を進めることが出来るものと考えます。

◆取組み事例

令和4年度の先進的な4市町村の取組みをまとめた事例集を県からの委託を受け作成しました。

この中では、「林業経営に適する森林」について、意向調査後に経営管理権や経営管理実施権を設定せずに、「意欲と能力のある林業経営者」の中から、森林所有者による事業体選定を行って森林整備に繋げる例、市町村に経営管理委託を希望した方以外に、周辺の森林所有者に働きかけを行って、集約化を的確に図って進めている例などを掲載しています。

◆おわりに

森林経営管理制度を活用した適切な森林整備のあり方を検討する市町村において、まずはモデル地区を選定し一通り進めてみた上で、改めて内容を検討することも重要だと考えます。

また、制度説明や意向調査などの説明会の際に、森林所有者からの情報や意見を得ることも、指針を定める上での参考になると考えます。

当機構では引き続き、市町村の皆さんの取組みが円滑に進むように適切なサポートに努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

〔公財〕やまがた森林と緑の推進機構



国有林から

施業案に見る明治期の山形の国有林

国有林では、国有林野の管理経営に関する法律に基づいて、森林計画区別に、5年ごとに5年を1期として、地域管理経営計画を定めることとされています。

山形県には、最上村山、庄内、置賜の各森林計画区が設定され、当署が位置する最上村山森林計画区では、令和2年度から6年度の5年間にわたる現行計画が定められています。

国有林の森林計画制度を遡ると、明治期の施業案制度に行き着きます。当時の宮城大林区署が、山形小林区署、後の山形・米沢両管林署の区域を対象として作成した「明治四十四年山形事業区施業案（ママ）編成説明書」は、総論、地況及び林況、林班区画、将来施業の見込み、収穫予定、造林予定等からなり、現在の計画を思わせる構成となっています。

山形事業区施業案

「総論」は、「山形小林区署管轄区域ハ山形米澤両市及東南村山東置賜南置賜四郡ノ全部及西置賜郡ノ一部、即チ二市五郡ニ涉リ（略）最上川ノ水源地ナリ」と始まり、当時の国有



「施業案説明書」

林や地域の概況が述べられています。原文は、旧仮名遣いの文語体で、ひらがなではなくカタカナが用いられ、手書きで句読点も付されていませんので読み進めるには難渋しますが、1世紀以上前の国有林の様子を垣間見ることができ、一部を紹介します（以後、読みやすさを優先して適宜調整して示します）。

乏しい森林資源

「総論」は続いて「うち南置賜郡、東置賜郡及び西置賜郡に於ける各国林を除きては、すでに維新当時より利用し尽くされたる乱用後の森林にして、全山ほとんど幼齡林もしくは小柴の林地にして、比較的運搬不便の箇所にてわづかに老齡林分を残存するに過ぎず」と資源の内容を憂えながら「施業の方法その宜しきを得るにあらざれば、遠からずし

て国有林は全く草生地のごとき状態を呈し、益々林地の荒廃を来たし、水源涸渇、洪水氾濫の惨状を来たさんのみならず、また、日常の薪材をも得るに途なきの悲況に陥るや明らかなり」と危機感を示しています。

明治期の千歳山と蔵王

現在も自然休養林として親しまれる千歳山についての記述もあります。「本団地は、山形市の東方約半里。

耕地に接して屹立し傾斜やや急、粘土多く地味良好ならず岩石の露出せし箇所あり」。そして「II令級ないしV令級（注：樹齡6〜25年）の赤松にして、用材に適するもの多しといえども、位置山形市に近く全市の風致を副ふることすくなからず、市民の好んでこれに遊ぶ所にして、緊要欠くべからざる公園地なれば、将来斫伐を禁じ風致のためにこれを保存しておく見込みなり」と、現在の森林利用のあり方が当時から想定されていたことがわかります。

蔵王についての記述もあります。

「蔵王山を中心としてアヲモリトドマツ群生せるありて、その区域約九百町歩にわたるといえども、材質不良、用材に適せず、加うるに運搬不便にして目今利用の途なし。蔵王山付近における数百町歩の不毛地は、

地味瘠薄にして赤松、落葉松等の樹種の生長をも許さざるがごとし」と、今日まで多くの入山者の目を楽しませることになる樹水原が維持された所以は、このような見立てによっていたようにも見えます。

このほか、現在の長井市西根付近に関して「窪地にして面積僅少の部分なるも塩地（注：シオジ）の天然生多く存在せるあり。生長良好にして老木は既に伐採し尽くされたれど、胸高直径四五寸のもの点々存在す。この部分を塩地谷地と称し米沢藩にては昔槍の柄を採取せる所なり」といった記述も見られます。

最上村山地域の国有林では、今年度から次期地域管理経営計画の編成作業も始まります。地域の皆様のご



「文語体で書かれている」

意見を伺いながら、将来的に確に見据えた森林計画を作っていくべきと考えています。

〔山形森林管理署〕

森林研究研修センターが実施する令和5年度の研修計画について

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進するため、各種研修を実施しています。令和5年度の研修計画について紹介します。

【主要研修の概要】

令和5年度は、昨年度に引き続き、ICT等を活用した新たな林業技術の習得に重点を置くほか、県・市町村林務担当職員を対象とした技術向上・育成研修を数多く実施します。主な研修の概要は下表のとおりです。それぞれの研修の日程等が決まり次第対象の方々にお知らせします。多くの方々の御参加をお待ちしています。〔森林研究研修センター〕



令和4年度
森林作業道作設研修

【令和5年度の主な研修の概要】

研修名	開催月 (予定)	場 所	対象者	内 容
森林作業道作設技能者養成研修	6月 (4日間)	試験実習林 (西川町)	森林作業道作設オペレーター (初級者)	・簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
林業技術者技術向上研修	7月 (4日間)	試験実習林 (西川町) 現 地	森林施業プランナー 林業経営体役員等	・ICT等情報化技術を用いた森林作業システムの構築 ・森林作業道改修技術の習得
青年林業士スキルアップ研修	7月	現 地 農林大学校	青年林業士	・先進地現地視察 ・農林大学校学生との意見交換
指導林業士・指導林家等研修	8月 (2日間)	村山管内	指導林家 指導林業士・青年林業士	・森林を活かした農山村の地域づくり ・現地研修
林業士養成研修	1月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	青年林業士候補者	・山形県林業士(青年)認定を受けるための養成研修
	2月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	指導林業士候補者	・山形県林業士(指導)認定を受けるための養成研修
森林技術職員等基礎研修 (刈払機)	6月 (1日間)	研修館 (寒河江市)	市町村・県職員	・刈払機取扱作業員に対する安全衛生教育
森林技術職員等基礎研修 (チェーンソー)	10月 (3日間)	研修館 (寒河江市) 試験実習林 (西川町)	市町村・県職員	・チェーンソーによる伐木等の業務に係る特別教育
森林技術職員等基礎研修 (新任者)	5月～9月 (3日間)	研修館 (寒河江市)	市町村・県職員	・森林行政の推進に必要な基礎的知識の習得 ・路網・造林・伐採の実務 ・ミニチュア採種園の造成・エリートツリー造成(特定母樹)
森林技術職員等技術研修	5月～11月 (6日間)	研修館 (寒河江市) 現 地	市町村・県職員	・特用林産・伐木技術・造林・森林保護・森林利活用・林業経営

卒業論文への取り組みについて

◇無事に七期生11人全員が2学年に進級し、就職活動、卒論調査、資格取得とますます忙しくなってきました。今回は今年度彼らが取り組む卒業論文のテーマと内容について紹介します。

○卒業論文について

「森林資源を活用した伝統工芸品と資源の現状に関する調査」

地域の森林資源を活用した伝統工芸品の把握と資源の現状について調査し、原材料調達における林業事業者との連携の可能性について検討する。

「地上レーザ計測による森林資源情報の見える化」

地上レーザを活用した森林資源情報の見える化により、森林所有者への間伐の提案を行い、森林整備への理解が進み集約化による収益性の向上に貢献することを目的とする。

「自家所有林を活用した広葉樹活用方法の検討」

自家所有林はコナラの優占する広葉樹林がほとんどであるが利用はされておらず放置されている。この自

家所有林を調査し、広葉樹林の活用方法を検討する。

「スズメバチ被害軽減に向けた対策の検討」

実習フィールドである才治沼実習林と下刈実習予定地のハチトラップ設置による効果の検討と森林組合におけるハチ被害への取組を調査し、被害予防・軽減対策について検討する。

「森林・林業への理解促進につながる木育の実施方法の検討」

次世代を担う若者、特に小学生を対象に森林・林業への理解度を高めることを目的とした木育プログラム・アクティビティの作成及び実施、検証を行う。

「有用広葉樹資源の活用に向けた調査」

原木市場において高付加価値で取引される広葉樹の材質調査及び製材関係者への聞き取りを行い、採材時の留意事項について伐採現場技術者へフィードバックを行う。このことにより、広葉樹資源の有効活用につなげることを課題とする。

「才治沼実習林広葉樹二次林における更新ユニットの設定」

才治沼実習林広葉樹二次林における更新方法別の森林区分となる更新ユニットを設定するとともに、更新に関する学生の学習フィールドとしての利用について検討する。

「民有林における一貫作業システムの実態と今後の普及に向けた検討」

県内の民有林で実施予定の一貫作業の実施状況を把握し、コスト低減効果の試算、民有林における普及に向けた検討を行う。

「航空レーザ計測データを用いた間伐設計の実施方法の検証」

間伐実習予定地である真室川県営林において、航空レーザ計測データを用いた要間伐林分の把握と間伐設計への応用について検証する。

「農林大学校卒業生の林業事業体における業務内容と課題の把握」

林業経営学科の卒業生（1期〜6期生）にこれまでの業務内容や課題をアンケート調査し、林業経営学科就職ガイダンス資料として取りまとめる。

「利用間伐における労働生産性と林内路網配置の関係」

利用間伐における高性能林業機械等を使用した作業システムと林内路

網配置の関係に着目し、労働生産性を高めるための森林作業道の配置について検討する。



広葉樹市場での材質調査状況

◇卒業論文では県の関係機関及び林業事業体の皆様からのご協力が必要となります。ぜひともご支援を賜りますようお願いいたします。

また、4月に8期生が入校しました。これまで1期生から6期生までの73名が卒業し東北をはじめ全国の林業事業体等に就職しております。令和5年度の在学生も林業、木材産業の即戦力として活躍できる担い手となれるよう、今後もご協力よろしく申し上げます。

〔山形県立農林大学校〕

「森林に新たな価値を生み出す」 令和4年度むらやま森林ノミクスセミナー

◆はじめに

「むらやま森林ノミクス」の推進のため、森林の新たな価値について村山地域内森林所有者等に広く発信するセミナーを開催しました。

◆セミナーの概要

令和5年2月20日（月）に村山総合支庁本庁舎講堂（山形市）で開催し、森林所有者など約80名が参加しました。

セミナーでは、岐阜県東白川村で製材業を営む、株式会社山共 代表取締役 田口房国氏をお招きし、自身が立ち上げた森林レンタルサービス「forenta（フォレント）」の取り組みについて御紹介いただきました。



株式会社山共
代表取締役 田口房国氏

本サービスは、購入せずとも自由に森林を利用したい一般の方に、年間契約で森林を貸し出すものです。

森林所有者には、木材や特用林産の生産ではなく、森林の空間利用によりあまり手間をかけずに収入を得ることができるというメリットがあるとの紹介がありました。加えて、岐阜県東白川村産業振興課職員の田口幸生氏に、実際に村有林で本サービスを活用している事例を御紹介いただきました。参加者からは「森林に明るい希望が見えてきた」などの前向きな感想をいただきました。

◆おわりに

森林空間が持つ豊かな価値を、健康、観光、教育などの多様な分野で活用する新たな産業は「森林サービス産業」と呼ばれ、山村の活性化に向けた関係人口の創出・拡大が期待されるものとして注目されています。林業の成長産業化と森林サービス産業を車の両輪として、今後さらに「むらやま森林ノミクス」が推進されていくことを期待します。

〔村山総合支庁森林整備課〕

「村山地域の森林・林業の情報発信」 「村森（むらしん）チャンネル」を開設

◆はじめに

村山総合支庁森林整備課では、村山地域の森林・林業の情報を広く県民に知ってもらうため、YouTubeとInstagramを使った「村森（むらしん）チャンネル」を開設し、情報配信をはじめました。

◆YouTubeでの配信

令和4年12月にチャンネルを開設しました。

山形地方森林組合に御協力をいただき、森林整備に関する動画を3本配信しております。

1本目の動画は2月末時点で3万回を超える再生回数となっており、2本目の玉切りの動画と、3本目の集材の動画も徐々に再生回数が伸びております。

◆Instagramでの配信

令和5年3月にアカウントを開設しました。

投稿はまだ少ないですが、今後は、イベント開催の情報等をリアルタイムに配信していく予定です。

◆今後について

「村森（むらしん）チャンネル」

では、森林・林業に関する情報を募集しており、村山地域の森林・林業に関する情報がありましたら、ぜひ御連絡ください。

（連絡先：林政企画担当あて
電話023162118284）。

◆アクセス先

YouTube
QRコード



YouTube
1本目の動画



【林業の日常】伐倒作業
3.1万回視聴・2か月前

Instagram
QRコード



〔村山総合支庁森林整備課〕

むらやま木育普及促進 の取組みについて

◆はじめに

村山総合支庁では、有識者からなるむらやま木育普及促進協議会を設置し、協議を行い、むらやま木育の普及促進体制を強化、独自の木育プログラムの試行・開発、管内の子育て支援施設等との連携による普及促進に取り組まれましたのでご紹介します。

◆令和4年度の取組み状況

令和4年度の取り組みは、むらやま木育普及促進協議会での新たな木育プログラム「コロコロラ」と「箸置き」についての意見等を受け、職員出前講座により、村山市立富本小学校で「コロコロラ」の試行を、管内子育て支援施設と育児サークルで「箸置き」の試行を行い、むらやま木育を普及するための木育プログラムの開発をすることができました。また、子育て支援施設9施設に、むらやま木育のパンフレットやポスター、11種類の木育プログラムを配布し、木育プログラムを普及できる施設の拡大を図るとともに、ソーシャルネットワークシステム等を活用した情報発信の強化及び新たに作成し

たポスター、リーフレットの市町への掲示・配布による木育拠点施設のPRを行いました。



富本小学校での「コロコロラ」の試行の様子

◆令和5年度の計画

令和5年度は、地域の広葉樹の有効活用と親子で体験できる生活用具を製作する木育プログラムを試行・開発するとともに、子育て支援施設と県民の森との連携による多様な木育活動の普及に繋げていきます。

また、森林インストラクターの育成と技術の向上も合わせて行っていく予定です。

◆おわりに

これからも、身近に木に触れる体験を通じて、木を使う事の大切さを伝えるため、むらやま木育の普及促進を進めていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

土砂災害を防止・軽減するには
「治山施設」が必要です！
森林を整備・利活用するには
「林道施設」が必要です！

山形県森林土木建設業協会 会長 永井 敏行

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

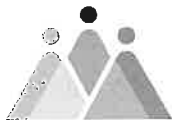


緑の募金

春の募金期間
4月1日～5月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

緑あふれる美しいふるさとづくりに、私たちは取り組んでいます。



公益財団法人 もり
やまがた森林と緑の推進機構

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634

ご協力をお願いいたします



「最上地域森林・林業・木材産業推進セミナー」開催

◆はじめに

3月9日、最上総合支庁講堂において、管内の市町村・森林組合・林業関係者等約60名を対象として、最上地域の森林面積のうち約4割を占める広葉樹資源の価値を再認識し、その効果的な活用方法について理解を深めることを目的としたセミナーを、山形森林管理署最上支署と最上地域林業振興協議会の共催で開催しました。

◆セミナーの概要

セミナーは「広葉樹資源の有効活用について」をテーマに2部構成で開催し、第1部は「ブナと広葉樹林の生態から見た持続的利用」と題し、宇都宮大学農学部の大久保達弘教授よりご講演いただきました。大久保教授のご専門は森林生態学、育林学で、国内はもちろん中国やボルネオ島などで里山林の利用が植物多様性の維持に及ぼす影響を調査研究しておられ、広葉樹の持続的管理の意義や植生分布の特徴などについてお話しいただきました。

第2部は、「広葉樹の有利採材等について」と題し、青森県森林組合連

合会の秋田貢参事よりご講演いただきました。秋田氏は森林整備、原木流通販売事業に従事し、特に針葉樹高品質材や広葉樹の評価販売、製材品等にも精通しており、またWLC（世界伐木チャンピオンシップ）に計4回出場するなど、現在はチェーンソーの技術指導も行っておられます。講演では、これまでの豊富な現場経験に基づいた広葉樹の採材方法や材の販売における課題等についてお話しいただきました。



セミナーの様子

◆おわりに

今後、最上地域においても人工林だけでなく、地域にある豊富な広葉樹資源が有効に活用されることを期待しています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部
Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
 TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
 TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

“美しい森林の風景を守るために”
森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林 GIS 等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人

山形森林調査協会

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
 TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
 E-mail : yfi@kfa.biglobe.ne.jp

「置賜森林ノミクス推進フォーラム2023」の開催について

令和5年3月2日（木）、シエル

ターナンようホール（南陽市文化会館）を会場に「置賜森林ノミクス推進フォーラム2023」を開催しましたので紹介します。

このフォーラムは、置賜地域の課題を解決し、地域の林業振興を図るために定めた「置賜地域の林業振興の展開方向」の取組みを確実に推進するため開催するもので、今年度で6回目となり、約90名の参加がありました。

今回は、置賜地域の特徴となっている豊富な天然生林（広葉樹）の用途拡大や需要の掘起しを通じた有効活用が求められているなか、新潟大学名誉教授紙谷智彦氏から「川上・川中・川下との連携で山間地集落のブナ林を活かす」用材林への誘導と利用間伐材活用の取組み」と題し、豪雪地で薪炭材として利用されてきたブナ林を利用間伐しながら材の価値を高め市場を開拓していく目的で、平成27年に立ち上げた川下から川上まで連携して活動する任意団体「スノーピーチプロジェクト」の活動について、講演で紹介していただ

きました。

この取組みは置賜地域の森林・林業を活かすヒントになるものです。

また、会場の後方では、木材利用関係の展示を行い、広葉樹を活用した床材、木製ブロック「もくブロック」のほか、やまがた森林ノミクス日用品木製シフト事業関連木製品、併せて地域産木材利用の取組み紹介を行い、参加者の関心を集めました。



講演の状況



展示の状況

今後とも置賜地域の林業振興に向け、関係者と方向性や意識・情報を共有する機会を設定しながら、置賜森林ノミクスを進めたいと考えております。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

置賜産広葉樹材の有効活用に向けて

〜新潟県「スノーピーチ・プロジェクト」調査報告〜

◆はじめに

置賜地域は、森林面積の約8割が広葉樹林ですが、広葉樹利用は年間5〜9千m³・チップ用材として使われているのが現状です。そこで、地域の広葉樹資源をより有効的に活用するための糸口を探るため、令和

5年1月12日と13日に、新潟県に出張し、地域産ブナ材の地産地消に取り組む「スノーピーチプロジェクト」について、左記の3社でお話を伺いました。

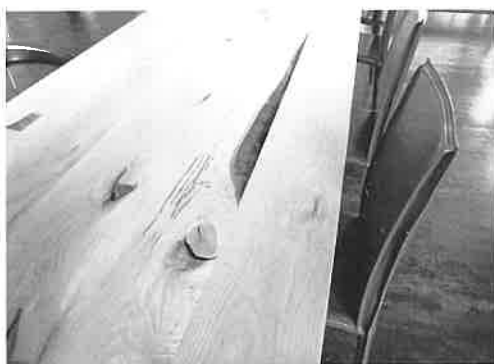
◆川上・川中・川下を繋ぐ思い

川上の大白川生産森林組合では、639haのブナ林を100年で1回のサイクルで間伐等により管理しており、産出した材は、川中の株式会社志田材木店が製材・乾燥のうえ展示販売し、株式会社朝倉家具をはじめとする川下の家具メーカー・木工所等で利用されています。川上・川中間では、材の寸法と価格をあらかじめ決めた上で山土場での取引を行い、川下では、節や穿孔材等を「生態デザイン」として活用するなど、取組には数々の特色ある工夫が見られました。そ

の中で、地域の資源としてブナ林を大切に守り、循環させ、次世代に伝えていくという思いは3社共通であり、その思いがユーザーの共感を呼ぶことで、付加価値の向上にも繋がっていました。

◆おわりに

地域材活用においては、関係者が相互理解の上、同じ目的を共有することが必要であると実感しました。置賜地域においても、広葉樹材のさらなる利活用に向け、今後とも関係者と連携を深めてまいります。



（株）朝倉家具の「生態デザイン」テーブルの天板

〔置賜総合支庁森林整備課〕

木炭展示会・講演会の開催

令和5年2月21日、米沢市の田沢コミュニティセンターで、木炭展示会と講演会が開催されました。

元々、木炭生産者の技術や意欲向上のために、木炭品評会として開催される予定でしたが、夏の豪雨や冬の豪雪で炭焼きに支障が出た方が多く、今年度は展示会として開催しました。そのような状況にも関わらず、木炭生産者の方々に頑張っていた様子、展示会当日は、白炭5点、黒炭2点、創作炭2点の合計9点（村山地域1点、置賜地域8点）が展示用として出品され、来場者の目を惹かせていました（写真1）。



写真1 木炭展示会の様子

木炭講演会では、山形大学農学部の小川三四郎准教授に「世界に誇る

山形県の広葉樹資源と製炭技術の発展に向けた課題検討」と題して講演をしていただきました。講演の中で日本は世界と比較しても高度で上質な炭の生産技術があること、また、山形県には豊富な広葉樹資源があり、それらを活用していくためにも、炭焼き技術の継承と発展が重要であると提言されていました。

その後、木炭生産者で青年林業士の柳沢悟さんに情報提供をしていただきました。柳沢さんは、白炭製造で大変な工程のクド引き（燃焼時に出る煙の量を調整）作業をオートメーション化して、労力の軽減を図っています（写真2）。なお、クド引きの大きさや装置の特徴については、次号で詳しく紹介したいと思います。



写真2 炭窯用自動クド引き装置

〔置賜総合支庁森林整備課〕

置賜「地材地住」ネットワークの木工教室について

◆はじめに

置賜「地材地住」ネットワークは、木材需要の大半を占める住宅資材としての需要拡大を図るため、置賜地域の森林組合、木材・製材業、建築・建設組合等25団体が一体となった置賜産木材による家づくりを行うため、平成17年に設立され、これまでに林業・木材産業・住宅関連産業の振興と持続的な森林の維持管理に貢献することを目的に、様々な活動を行ってきました。

今回はその活動の一つの木工教室をご紹介します。

◆木工教室について

木工教室は、置賜管内の保育園の年長児を対象に実施しており、木製のイス作りを通して、森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、木への親しみを身に付けることを目的とした「やまがた木育」の一環として、平成30年度から毎年行っており、5年目を迎えます。今年度は米沢市、南陽市、長井市の保育園で開催しました。

本教室では園児たちを5名程度に班分けをし、スギの木に触れながら

ネットワーク会員の建築・建設組合の講師の手ほどきを受け、電動ドリイバーを使用してイス作りを始めました。最初は恐る恐る作っていましたが、次第に慣れ、1時間ほどで完成し、園児たちは自分で作ったイスの座り心地を確かめ合い、満足げにしていました。今回園児たちが作成したイスは、各保育園に寄贈し終了となりました。



完成したイスと記念撮影

◆おわりに

今後も、この活動を継続していくとともに、木材の需要拡大に向け取り組んでまいります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

ツリーイングを駆使した特殊伐採

～人家の裏など重機が入れない場所での伐採技術～

◆はじめに

庄内地域沿岸では松くい虫による松枯れが多数確認されており、多くのクロマツが被害を受けています。庄内総合支庁では「やまがた緑環境税」を活用した森林整備事業に取り組み、松枯れ被害木等の枯損木や不良木を対象に、人家の裏山や道路沿いなどで防災や景観保全のために伐採を行い、荒廃の恐れのある森林の整備を進めています。

◆特殊伐採について

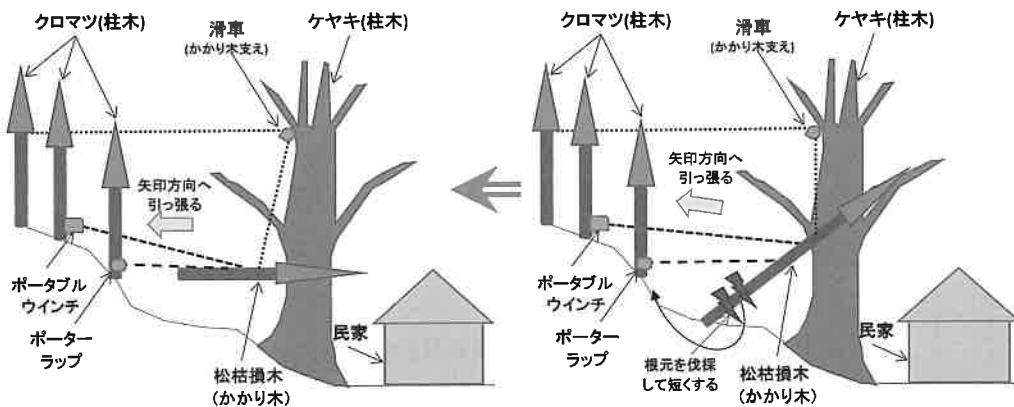
今回の現場では、人家裏の法面にあるケヤキの枝に松枯れ被害木が倒れかかり（以下、「かかり木」という）、真下の人家にいつ落下するかわからないほど非常に危険な状態でした。本来であれば高所作業車とラフタークレーン等を使用してかかり木を伐採する方法が一般的ですが、当該施工地は狭い住宅地の奥にあり、アクセス道路も大型重機が通れず、特殊な方法で伐採せざるを得ませんでした。今回行った特殊伐採は「ツリーイング」という技術やクレーンの代役となる柱木を活用して落下の危険



真下に民家があるため非常に危険な状況

性のある木のみを伐採する方法です。ツリークライミングの技術を駆使してケヤキに登り、ケヤキを柱木とするためにリギング（吊り切り）ロープや滑車を伐採木上部に取り付けます。次に、伐採木をけん引するためポータブルウインチや降ろす速度をコントロールするポーターラップをクロマツの柱木に設置します。その後、けん引状況をみながらロープ固定箇所を調整して根元から伐採し、

全長を吊ることができると長さを短くします。最後に、ポータブルウインチでけん引して伐採木が宙吊りになり、山側へ引き寄せることでケヤキから外れて、無事かかり木状態を脱することができました。



特殊伐採イメージ図

◆今後に向けて

今回の特殊伐採は、ツリーイングの技術を有している鼠ヶ関ツリーサービス（森林やまがた204号12ページ参照）に依頼しました。最近、今回のような重機が入れない場所での伐採依頼が増えてきているようですが、この技術を習得するには多大な時間と経験を要し、課題も多くあります。一方で、高所にロープを回すための「スローライン」の手法は非常に導入しやすく、通常伐採のかかり木処理にも応用できるため、今後、「かかり木処理研修」などを通じ、普及活動を行っていきたいと思います。

〔庄内総合支庁森づくり推進室〕



枝先へのリムウォーキング

「触れてみよう、使ってみよう」林業の道具in山大 林業体験研修が開催されました

◆はじめに

大寒の只中の1月28日、林業に係る道具や器具をとおして林業へ興味関心を持ってもらうための研修会を山形大学農学部体育館にて開催し、ナタ等の類からAR（拡張現実）等の電子機器にわたる70種余りの展示物を地元の指導林業士4名と（株）鳥海フォレストの方々を紹介していただきました。

◆当日の様子

水点下の風が吹きつける曇天の中、来場された17名の受講者は、ズラリと並んだ見慣れない器具の数々に興味津々の様子でした。特に、最新の森林計測技術である



ARの展示

ARは3D映像の強い印象と合わせ、得られるデータの活用性の高さが、受講者を驚かせていました。また、林



器具類の展示の様子

業士の方々の実体験を交えた迫力あるお話は、時に道具の説明を外れて林業全般に広がり、大いに盛り上がっていました。

◆今後に向けて

受講者へのアンケートによると講師の方々の熱心な説明のお蔭か、多くの方が林業への興味を示しており、研修の目的は達する事ができたとと言えます。

今後とも同様に森林・林業への興味関心を喚起する内容の研修を企画したいと思えます。



学生の参加もありました

〔庄内総合支庁森林整備課〕

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部では下記のとおり講習会を実施します。

- ◆「刈払い作業の安全衛生教育講習会」 学科及び実技で1日の受講
◇日時：6月16日（金）、7月4日（火）、8月22日（火） ◇会場：「協同の杜」J A 研修所
◇定員：各40名
- ◆「伐木等の業務に係る特別教育講習」 学科（2日間）及び実技（1日）の計3日間の受講

コース	学 科	会 場	実 技	会 場	定員
①	5月24日（水）	「協同の杜」 J A 研修所	5月26日（金）	県森林研究研修センター実習林 （西川町沼山）	30名
②	及び25日（木）		5月29日（月）		30名
③	6月7日（水）		6月9日（金）		30名
④	及び8日（木）		6月12日（月）		30名
⑤	6月27日（火）		6月29日（木）		30名
⑥	及び28日（水）		6月30日（金）		30名
⑦	8月23日（水）		8月25日（金）		30名
⑧	及び24日（木）		8月28日（月）		30名

- ◆「車両系木材伐出機械の運転業務に係る特別教育講習」 学科及び実技（受講科目等により講習時間が異なる）
◇学科講習：8月9日（水）及び10日（木）の2日間 会場：「協同の杜」J A 研修所 定員：60名
◇実技講習（ワイヤロープ）：9月4日（月）、9月5日（火） 会場：県森林研究研修センター実習林（西川町沼山）
◇実技講習（作業のための装置の操作等）：9月11日（月）～13日（水）の3日間 会場：鶴岡市内
※当特別講習の受講にあたり、車両系建設機械運転技能講習や小型車両系建設機械の特別教育等の修了証が必要です
- ◆「木材加工用機械作業主任者技能講習」 学科のみ2日間の受講
◇日時：8月1日（火）及び2日（水） ◇会場：「協同の杜」J A 研修所 ◇定員：25名
- ◆チェーンソーを用いて行う伐木等業務従事者安全衛生教育「再教育」 5年ごとの受講（学科のみ）
◇日時：7月14日（金） ◇会場：「協同の杜」J A 研修所 ◇定員：40名

【お問合せ先】 林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部 TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

山形県源流の森のご案内



アルプホルン演奏会



きのこの植菌体験



冒険体験

オープニングイベント

5月7日(日)

時間: 10:00~15:00

場所: 飯豊町大字須郷669-3
源流の森センター周辺



詳細はこちらから↑

山形県県民の森のご案内



森のヨガ教室



殺陣体験教室



ミニSL大運転会

オープニング・新緑まつり

4月29日(土) 昭和の日

時間: 10:00~14:30

場所: 東村山郡山辺町大字畑谷1933-42
森林学習展示館周辺



詳細はこちらから↑

令和5年度 眺海の森

森林教室のご案内 (計6回)

眺海の森では、森林を守り育てることの大切さを学ぶとともに、緑化意識の高揚を図る活動を下記の日程で年間6回開催します。

日時	内容
4/29	緑のプレゼント、山野草観察の散策、木製オリジナル写真立て作り
6/18	桜の実採取の散策、果実酒作り、手作りとんぼ作り(虫よけになる?)
8/6	夏休み企画・親子ウォークラリー、木工ボールペンとネーム作り
10/1	木の実探しの散策、焼き杉の鍋敷きとほおの木のスプーン作り
11/5	紅葉狩の散策、なめこの植菌体験
12/3	リースとハーブのエアフレッシュナー作り

ぜひ多くの皆様のお越しをお待ちしております。

一般社団法人庄内森林保全協会
TEL/FAX 0234-62-3323

山形県遊学の森からお知らせ

カタクリ祭りなど実施します。
令和5年度 森づくりイベントの情報満載!

詳細はこちらから↓

ホーム
ページ



フェイス
ブック



人事異動

令和5年4月1日付けで次のとおり発令になりました。

【森林ノミクス推進課】

▽森林保全主幹 佐藤典生▽副主幹 (兼) 課長補佐 (林政企画担当) 坂本幸雄▽課長補佐 (総括) 八矢一博▽課長補佐 (森林整備・再造林推進担当) 丹野真人▽課長補佐 (森林保全担当) (兼) 防災危機管理課 防災対策専門員 増川栄一▽予算主査 奥田聡▽林産振興主査 高橋宏治▽森林経営管理主査 相原亮太郎▽主査 (林産振興担当) 浦田香織▽主査 (森林整備・再造林推進担当) 越智温子▽主査 (森林保全担当) 津藤亮太▽技師 (森林保全担当) 星川智希▽主事 (林政企画担当) 笹ひいろ

【森林研究研修センター】

▽所長 横倉肇▽総務専門員 高橋一▽専門研究員 村川直美子

【農政企画課】

主査 (戦略推進担当) 小野智史

【農林大学校】

▽教授 (林業経営学科) 今田洋一

【専門職大学整備推進課】

▽課長補佐 (教務学生担当) 上野 満

【村山総合支庁森林整備課】

▽森づくり推進室長 日沼賢尚▽課長補佐 (林政企画) 菅井泰之▽森づくり推進室室長補佐 (森づくり担当) 荒木龍平▽森づくり推進室室長補佐 (里山造林担当) 渡辺智之▽林政主査 井上浩▽森づくり推進室造林主査 佐藤充▽森づくり推進室主任主査 (森づくり担当) 大築和彦▽技師 (林政企画担当) 青木ほのり▽林業普及指導員 (普及担当) 阿部健太▽技師 (治山林道担当) 大内辰章▽技師 (治山林道担当) 小林朋暉▽技師 (里山造林担当) 小林美佳

【最上総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 (兼) 林業・木材産業振興室長 片桐政和▽林業・木材産業振興室室長補佐 (普及担当) 矢萩洋平▽森づくり推進室室長補佐 井上一馬▽林政主査 齋藤朱美▽森

づくり推進室主任主査 梅津一寿▽技師 (治山林道担当) 木村天政▽林業普及指導員 (普及担当) 今田貴裕▽技師 遠藤翔太

【置賜総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 小関秀章▽森づくり推進室長 黒田誠一▽課長補佐 (治山林道担当) 松田名由▽森づくり推進室室長補佐 (里山造林担当) 鈴木俊行▽森林管理主査 横山一徳▽専門林業普及指導員 (普及担当) 高橋文▽主査 (治山林道担当) 新野仁崇▽主任林業普及指導員 (普及担当) 中場菜央▽技師 (治山林道担当) 木戸佑梨子

【庄内総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 菅原隆志▽課長補佐 (林政企画担当) 阿部正己▽課長補佐 (治山林道担当) 樋口裕之▽森づくり推進室室長補佐 (里山造林担当) 齋藤浩▽林政主査 芳賀高之▽主任専門林業普及指導員 鈴木貴雄▽森林管理主査 澤口宜将▽治山林道主査 戸田吉彦▽専門林業普及指導員 (普及担当) 瀧澤逸▽技師 (林政企画担当) 新野亜依▽技師 (治山林道担当) 石塚葵▽技師

師 (里山造林担当) 後藤春樹▽技師 (里山造林担当) 齋藤大河

【環境エネルギー部みどり自然課】

▽みどり県民活動推進主幹 志藤彰▽課長補佐 (環境影響評価・温泉保全担当) 齋藤孝浩▽野生生物対策主査 佐藤瑞穂▽主査 (みどり県民活動担当) 松木利夫

【砂防・災害対策課】

▽主任技師 幸田光

【会計局工事検査課】

▽検査専門員 浅野浩

●退職者

▽森林研究研修センター所長 梅津一寿▽置賜総合支庁森林整備課長 大築和彦▽置賜総合支庁森づくり推進室長 柴田泉▽庄内総合支庁森林整備課長 伊藤信▽森林ノミクス推進課 技師 狩野和也▽森林研究研修センター 研究員 青木聡樹▽置賜総合支庁森林整備課 技師 山岸明寛